

新種、現る!



偏光視界

リンサー
拡販



レイン
ドロップ
NEXT



PRO
見参

Chemical



手の平
噴射

伸び
縮み



マルチなソケット

「探せる」
アクセ



Gear



雑貨スタイル

ワインのごとし



まとまるケーブル



Fragrance



カツパーな
装い



Accessory

新基準
対応



スクエアな
ポータブル



New! MOMO



鉛の強み



クール
早仕込み



Interior

【巻頭速報】

BRAND-NEW 2026 spring

カーグッズの最前線をゆく!

EXPRESS

カーオーディオ ADVANCE 最初の一歩

情性で音楽を聴くのは、もう終わりにしよう!

大半の人がクルマの中でラジオか音楽を聴いているが、大体は情性で聴き流している。それをBGMというのかもしれないが、一つひとつの音楽に込められたメッセージはかなり深い。その楽しさを、味わえればクルマはもっと楽しい自分だけの空間になるのである。でも手間がかかる? いいえ、実は、考え次第でシンプルにシステムアップができてしまうのだ。

まとめ：松永大演 写真：前田恵介

DSPは難しくない! むしろ最初の一歩ならコレ!

P66-67

carrozzeria DEQ-2000A

誤解を恐れず言うなら、パワーアンプの進化版。ヘッドユニットを交換できない最新モデルから、インテリアデザインをそのままに保ちたい旧車、そして何からやるべきか悩んでいる人まで、まず迷ったらここから始めよう。装着はスピーカーケーブルの途中に設置するだけ。それで、驚きの進化がここに!



これはカンタン! ラインケーブル交換で効果絶大って知っていた?

P70

Audio-Technica Rexas [AT-RX4500A / ATRX3500A]

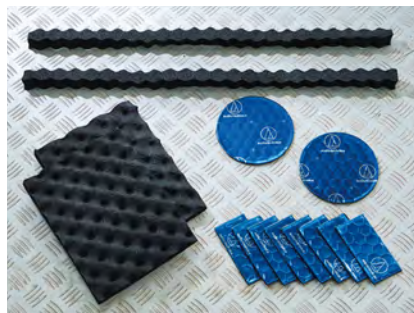


意外なほどにノーマークだったことを実感させられるのが、RCAのラインケーブル。信頼性の高さとともに、驚くのは澄み渡るサウンドの変貌ぶり。一般のケーブルとは桁違いの価格だが、その価値アリアリ。ラインケーブルを交換するだけ。ホームオーディオでも驚きのポテンシャルアップを実現。

スピーカー交換の新常識! デッドニングは行動あるのみ!

P68-69

Audio-Technica AquieT [AT-AQ474]



スピーカーを変えるなら、併せて考えたいデッドニング。ハイスpekのスピーカーはずっしりと重くコーンの動きは俊敏だから、支えはしっかりしたい。ドアパネルの制振、吸音でスピーカー本来の性能を引き出す。スピーカー交換のついでにできる手軽さだからこそ「やっちゃえ、デッドニング」。

プロショップ活用がベスト!

頼るべきは新鋭プロショップ! 「オートボックス オーディオテラー」

オーディオのシステムアップにあたり、最初の一歩を踏み出そうとする時、やはり勇気があるのが、どこで相談するか。オーディオインストールとなるとピンキリの世界で、「いくらかかるんだろう」と心配にもなってしまう。そこで紹介したいのが、ニューオープン「オートボックス オーディオテラー」。オーディオをテラーメイドしてくれる店なのだが、リーズナブルな製品からハイブランド製品までを揃えながらも、オートボックスの名前の通り数居のすくなく低いお店。懐具合も含め、「まずは相談を」というスタンスで立ち寄れるのが嬉しい。DIYも楽しいが、予算に見合ったシステムを、じっくりと相談しながら、信頼と安心の取り付けが可能という、ここに大きな魅力がある。

オートボックスオーディオテラー 千葉・蘇我インター
千葉県千葉市緑区古市場町718-1 ☎043-235-7506



千葉県・蘇我インターに近い、おしゃれなオーディオ特化型店舗として2025年12月に誕生。館山自動車道・蘇我ICから5分程度。営業時間は10:30-18:30で定休日は火曜日。駐車場は30台分を備える。フェアレディZ、マスタング、エブリイなどのデモカーも常駐。



実際に聞いて選べる豊富なスピーカー群。DSPの試聴も可能。また、デモカーも揃えられ、気になるサウンドを直接確認することもしっかりとできるお店だ。



今回の店舗の企画・立案から手がけたオートボックスセブン・次世代ビジネスプロジェクト・タスクリーダーの森駿介さん(左)。そして同プロジェクト施工担当の石井宏国さん(右)は、オーディオのスペシャリスト&一級自動車整備士。上質なサウンドの実現とともに、安全・安心な施工も motto のひとつ。

デッドニングの完了。プルーの制振材は、ただ貼ればいいのではなく経験に基づき適所に配置。今回インストールしたスピーカーはケンウッド「KFC-XS175S」だ。スピーカー円周には防音材を設置。



現代のクルマのボディはサウンドに弱点が

カーオーディオを良くしたいと思つたとき、まず多くの人が考えるのはスピーカー交換だろう。確かにスピー

カーを変えるだけでも音は変わる。だが実は、その効果をさらに引き出す方法がある。それが「デッドニング」だ。

デッドニングとは、スピーカーが取り付けられているドア内部に振動対策を施すこと。少し難しく聞こえるかも

スピーカーを交換するなら、デッドニングも忘れずに

「スピーカーを変えるぞ!」という決心がついたなら、考えて欲しいもうひとつのことがある。それがデッドニング。スピーカーの周囲をガッチリと固定して、余計な音も吸音すれば、スピーカー本来の性能がしっかり発揮できる。どうせ内張を剥がして作業するので、ここは是非とも考えてみてほしい。

のための穴も多い。そこにスピーカーを取り付けると、音楽の振動がドア全体に伝わり、余計なビビリや共鳴が発生してしまうことがある。

せっかく良いスピーカーを取り付けても、土台が不安定では本来の性能を発揮できない。特に高性能スピーカーは純正品よりもマグネットが大きく、振動も強い。そのぶんドアへの影響も大きくなる。

そこで役立つのが、オーディオテクニカのデッドニング用『ドアチューニングキット』だ。今回はオートバックスのオーディオテラーで、ケンウッドの『KFC-XS175S』へスピーカー交換を行いながら、同時にデッドニングを施工した。

サウンドをベースから変えよう

作業はまずドアの内張りを外すところから始まる。最近のクルマはわずかなネジとクリップで固定されていることが多く、構造を理解すれば取り外し自体はそれほど難しくない。

内張りの奥には金属製のドアパネルがあり、ここにスピーカーが取り付けられている。施工では、このパネルの適切な位置に制振材を貼り、振動を抑える。またスピーカーの裏側

しれないが、要するに「スピーカーをしっかりと鳴らせる土台をつくる作業」だ。クルマのドアは、音響専用には作られているわけではない。軽くて丈夫であることが優先されているため、鉄板は意外と薄く、内部には軽量化

驚きしかないラインケーブル

通常ホームオーディオだと付属品として付いてくことも多いRCAのラインケーブル。しかしこのRexat(レグザット)の製品は、価格が驚くほど高く「どれほどの価値があるのだろうか?」と考えてしまうほど。しかし、「百聞は一見に如かず」という通り、聴いてみたらまさに「目から鱗」の秀逸ぶりだ。

ラインケーブルに5万円!の驚異

カーオーディオでケーブルを変えると効果は、半信半疑に受け止められがちだ。音源やスピーカー、アンプの違いは分かりやすいが、信号を通すだけの存在にどれほどの差があるのか。そう思っていたのも事実である。しかし今回試したオーディオテクニカのレグザットシリーズ、『AT-RX3500A』と『AT-RX4500A』は、その印象を大きく覆した。



Audio-Technica
ハイブリッド
ラインケーブル(左)
AT-RX3500A/1.3
価格: 2万8600円(1.3m)

Audio-Technica
クワトロハイブリッド
ラインケーブル(右)
AT-RX4500A/1.3
価格: 5万5000円(1.3m)

ともに車載を前提として耐久性、耐候性、操作性、確実性などを追求。AT-RX3500AではPCUHD+HYPER OFCのハイブリッド導体を採用し、AT-RX4500Aではこれに7NClassD.U.C.C+6N-OFcを加えたクワトロハイブリッド導体で構成される。

源流を整えることで、オーディオのポテンシャルを再認識



AT-RX4500Aのプラグ部。ホットピンはオーディオテクニカの Patent となるガラス繊維入りPBT充填中空ホットピンを採用。不要振動を抑制。



AT-RX4500A(上)は、プラグ部に艶を抑えたシックな外觀。ブッシュ部は金属製で、シースはPETスリーブでケーブルを保護する。AT-RX3500A(下)のプラグ部は程よい光沢で艶やかな外觀。ブッシュ部は樹脂製。ケーブルは柔らかく、インストールしやすい。

試聴は自宅のホームオーディオで、CDプレーヤーからプリメインアンプへのラインとして使用した。まずAT-RX3500A。音を出して最初に感じたのは、これまで埋もれていた音が自然に姿を現す感覚である。また、ポリウレタンを上げていってもノイズに感じない柔らかさ、音像の輪郭が整うように感じられた。ピアノでは指の動きや強さが見えてくるかのようで、パイプオルガンでは重厚な低音が濁らずに広がる。単に強くなるのではなくS/N比の向上が実感できる。

これまで、我がオーディオシステムはかなりロートルなものと思いがら聞いていたが、「なんだよ、すごいじゃないか!」を実感。源流からの対策がどれだけの効果を上げるのか、その役割をあらためて実感させられた。「高額だけど、いつかは絶対買わず!」と思わせる実力だ。

続くAT-RX4500Aは、その方向性をさらに深化させる。とくに印象的なのは音の消え際、そして余白の美しさだ。余韻が滑らかに溶け、空間が自然に広がる。ボーカルは生身の感じを伝え、肌や汗まで感じるほど。決して美しさだけではない、リ

アルさがあった。トランペットやシンバルの質感は、その場の空気をそのまま伝える。言ってみれば、強さが痛さを感じない。音楽が単なる再生から体験へと変わる感覚なのだが、決してきれいごとばかりではなかった。それが良い面と共に、恐ろしいほどの再現力なのだ気がついた。

AT-RX3500Aが明瞭度と情報量を押し上げるモデルだとすれば、AT-RX4500Aは、それに加えて空気感と余韻も伝える、もっと言えば現実を突きつける感覚。